

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470900180		
法人名	医療法人 豊和会		
事業所名	グループホームあらしま		
所在地	三重県鳥羽市安楽島町字高山1075-29		
自己評価作成日	平成 27年 8月 15日	評価結果市町提出日	平成28年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470900180-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27年 9月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鳥羽湾の広い海や緑など自然に囲まれた環境の中で、窓から眺める空と海との青さは心安らぎ、静かな生活が送れる。
1階がデイサービスになっており、立地条件として地域との交流が図りにくい点をカバー出来る。月1~2回の合同の催しや、自由な行き来が出来て、友人や馴染みの方と交流を深めている。入居者の方に笑顔で毎日をご過ごして頂くためには職員自身が笑顔で働いている事が大切であると自覚し、その事を目標に日々のケアに当たっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊勢志摩国立公園に位置する鳥羽湾を眼下に望むグループホームあらしまはユニット名をかもめ(鳥羽市の鳥)・はまなでしこ(鳥羽市の花)と命名され、自然景観に恵まれた保養地に立地している。デイサービス併設の1階の玄関ロビーには『みなさんようこそ』と『職員の顔写真』を掲げ、スタッフの紹介をしている。廊下には利用者の手芸品を飾るなど、明るく和やかな雰囲気になるような工夫が随所にみられる。開設時にみんなで考えた「その人らしさを大切にしながら明るく穏やかに過ごせるホーム」を理念として共有し、ケアの質の均一化の実践に取り組んでいる。昼食時『此処は毎日御馳走!』と話された利用者ご夫妻を見守る、職員の眼差しは優しく、家族からも感謝の声が多く届いている穏やかな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をステーション内に掲示し「その人らしさを大切にしながら穏やかな日々を送って頂けるケアを提供出来るよう心掛けている。	職員全員で意見を出し合い一緒に考えた理念『その人らしさを大切にしながら明るく穏やかに過ごせるホーム』を、利用者が墨で書き、その作品が掲げられている。申し送り時に確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々がボランティアで来苑されたり、1階デイサービスとの合同イベントへの参加、外出支援等でたくさんの方と交流出来る機会を提供するようにしている。	ホテルや保養所が多い地域であるが、市民広場への散歩時に交流のあったフラメンコの先生やフラダンスやギターなどのボランティアの方々に来ていただいたり、デイサービスの利用者との交流や老人会のカラオケに参加するなど事業所が地域の一員として交流出来る機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出支援(買い物・散歩・花見見学)の際、地域の人や馴染みの人と触れ合う事で認知症の理解を得る事は出来るが、地域貢献の実施には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への参加者も多くなり、利用者も参加され意見を交換されている。職員には議事録を作成して回覧・共有する事で現状把握やサービス向上に反映されている。	2ヶ月に1回、偶数月の第4火曜日に運営推進会議を開催し、事業所からの報告や参加者からの質問・要望・意見をうけ、地域の支援と理解を得る機会にしている。議事録もきちんと作成されている。(鳥羽市の花火大会を家族やボランティアの方々と施設屋上で見物出来る様にしてほしいとの要望もあったので現在検討中である。)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	職員が市町主催の研修会に参加したり、市職員が施設の運営推進会議に参加して頂いている。介護相談員の訪問等で、現状を報告し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護相談員訪問時に同行する鳥羽市担当者に事業所の実情を伝え、市の連絡協議会部会にも参加している。また運営規定の変更時などに、鳥羽市介護保険課と連絡を密にとり協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束廃止委員会に参加している。全職員はマニュアルを頭に入れ、事故の起きない環境を整備し、周知徹底して拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内での身体拘束廃止委員会にグループホームからも参加し、職員に伝達講習を行っている。また職員自身が身体拘束と言葉の拘束の弊害を認識し、日々の言葉かけに留意し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止について学び、知識を理解した上でケアに当たっている。又、職員同士でも虐待が無いように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている入居者は居ないが、以前利用されている方が見えたので、制度については理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についての説明には相談員とご家族が話し合い、入居される施設の見学と説明を聞き、理解し納得された上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施して利用者やご家族、地域包括支援センター職員、地域住民の代表者に集まって頂き、意見や要望について話し合っている。	担当制をとっており、利用者・家族が意見・要望などを言いやすい関係づくりに配慮して支援している。また不満を話しやすい雰囲気づくりを工夫して、利用者一人ひとりと話をする機会を設けている。家族の訪問も多く有り、感謝の声が届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、運営者との面談がある。又、2ヶ月に1回の職員会議で個々の意見を出す機会を設けている。	年1回のホーム長との面談や事務長との面談などで職員の意見を受け止める機会がある。また2ヶ月に1回の職員会議で意見を出し合い、そこから出た要望や意見などを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は業績考課シートを年1回実施し職員個々の実績や勤務状況、不平不満の把握に努めている。又、月1回の業務推進会議では職員の取り組みを報告している。運営者は年1回職員1人1人を面談し、働き易い職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、講習会にそれぞれ参加し、他の職員にも研修内容を職員会議等で伝えている。介護福祉士、介護支援専門員の受験希望者には研修を受ける機会や試験を受ける援助をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会には定期的に参加している。法人内でも勉強会や他部署との交流、他の施設との研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての面談において今までの生活をどのように過ごしてきたか、又、これからどのように生活していきたいか等、本人や家族の希望を聞き、安心して生活して頂けるように説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に日常生活の事、ご家族の事、困っている事その他、当ホームで生活していく上での要望・希望等を聞かせて頂き、本人により良い生活を送って頂けるよう話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の要望等も含め、サービス利用や必要としている支援を見極め、対応するように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で共に作業をする時間を作り、会話を楽しんだり教わったりする気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	色々な行事を行う時にはご家族に連絡し、参加して頂けるようにしている。入居者の体調不良時なども連絡し状況を伝え共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子供たちの手紙やスーパーでの買い物、ドライブ、市民の森での花見等、地域の皆さんとの交流に努めている。又、2ヶ月に1回の運営推進会議では、入居者、ご家族、市職員、馴染みのある方に参加して頂き、意見交換等を行っている。	併設のデイサービスを利用している知人の訪問を支援したり、家族が訪問しやすい雰囲気づくりを工夫し、家族との絆を大切にしている。行きつけの美容院や地域のスーパーへの買い物・法事・墓参りなど馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。また外泊・外出の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の入居者の性格・相性等も考え、上手く関わり合えるようにしている。リビングで過ごす時間を大切にし、会話など一緒に楽しむようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出支援時などに、以前入居されていた利用者のご家族とお会いする時があり、近況を聞かせてもらう事がある。運営推進会議の参加なども来て頂き、交流が続くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、入居者との会話を多くし、入居者1人1人の希望や趣味を聞き、行動の中で把握するよう努めている。申し送りや職員会議等を利用し、職員間の情報共有にも努めている。	入浴時や散歩時の会話などで利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、なんでもノートに記載して、全職員が共有し、その人らしく暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談で今までの日常生活環境、サービス利用時等聞かせて頂き、入居前に全職員情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝行うバイタル測定を元に、1人1人の健康状態や一日の過ごし方等を1日2回の申し送りやなんでもノートにより把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族と一緒に担当者会議に出席して頂き、本人の意見を聞き、介護計画立案するよう心掛けている。	3ヶ月毎に担当職員・利用者・家族の意見を確認して、ケアマネージャーが現状に即した介護計画を作成している。状況に変化が出た際には随時の見直しも行っている。計画書は家族に報告し、職員にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、ケアの工夫や気づきをカルテに記入、1日2回の申し送りやなんでもノートを使い、話し合いの場を持ち、よりよいケアに努める。又、職員会議時にも意見を出し合い見直し等に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや入退院時、ご家族の都合が悪い時は柔軟に対応している。又、ご家族の都合により夜間の面会、外出帰宅などにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他のサービスについても把握してケアマネジャーと話し合い、利用者1人1人のその人らしい暮らしを考慮して支援出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の希望を聞き、希望の無い時は同法人の病院がかかりつけ医となり、月2回の往診や年1回の健康診断等を支援している。体調不良時は、家族と連絡を取り、病院受診をして頂いている。	グループホーム利用時に本人・家族から希望するかかりつけ医の確認をとっている。希望のない方は法人内の病院と連携をとり、月2回の往診や年1回の健康診断などを支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護士が常に連絡を密にし、個々の利用者の情報や気づきを報告・相談し、申し送りや職員会議で話し合う事で適切な看護・受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の病院と連携して、月2回、医師の往診と週1回の看護師の健康チェックにより、迅速な対応が出来る。入退院は相談員を通じ、出来るだけスムーズに行える様、情報交換も行い、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは原則として行わない事を家族・本人には伝えている。その中で家族・本人と話し合い希望を把握するようにしている。看取りについての勉強会も行われている。家族とかかりつけ医の病院と連絡を密にし、安心した対応が出来る様支援している。	『医療連携体制及び重度化した場合における指針』を作成し、看取りは原則行わないことを説明しているが、昨年末に家族の強い希望で開設時より利用されていた102歳の利用者のターミナルケア・看取りが行われた。チームで支援に取り組めるように法人の勉強会に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が落ち着いて対応出来る様、急変時マニュアルや緊急時の連絡網を作成しており、職員同士で話し合いを行ったり、看護師の指導を元に対応出来る様心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の元、年2回防火防災訓練を実施している。運営推進会議での話し合いや地域の方にも働きかけ、利用者のみならずとと共に訓練参加をお願いし、実施している。訓練では夜間も想定し行っている。	鳥羽市消防署の協力を得て年二回、夜間想定消防訓練・総合防災訓練を併設のデイサービスと一緒に実施している。被災時には地域が孤立化する可能性も視野に入れて、自家発電2台と非常用食料3日分を準備している。	利用者一人ひとりの状態をふまえて、昼夜を通じて災害時の具体的避難策を検討され、確実な避難誘導ができるように、日々の職員役割分担を明確にされる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人の性格を把握し、誰もが入居者に対し、その人に合った言葉掛けや援助が出来るようにしている。気になる言葉掛けや対応についてはその都度指導したり、職員会議等で話し合い、確認している。	利用者一人ひとりの気持ちを大切に考えて、無理強いしないケアを常に心がけている。語調や言葉かけが利用者の誇りやプライバシーを傷つけることがないように笑顔で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出、レクリエーションや手作業等は本人の希望を聞き、自己決定を優先した対応を行うと共に1人1人選択出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・散歩をしたり、1人1人に合った生活の流れを崩さないように、その人らしいペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容の訪問があり、利用希望者は髪のカットをしてもらっている。家族と馴染みの所へ行く利用者もいる。身だしなみは支援の必要な方も含め、その人らしさを考えながら希望に沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園畑では草抜きや水やりなど入居者と共に行い、収穫した野菜を食べて頂いて楽しまれている。又、食材の下ごしらえ・配膳・片付け・食器拭き等も1人1人の状況や力を考え、その人に合わせて行っている。	2ユニットともにオープンキッチンである。匂いや音などで五感を刺激して食事が楽しみなものになるように工夫している。菜園ノートを作成し、事業所内の菜園で収穫した季節の野菜もメニューに取り入れ、職員も同じテーブルと一緒に食事をし、利用者との会話が弾み、楽しい食事の風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フロアや居室にお茶を置き、夜間はペットボトルを用意し、水分補給を行っている。食事ではその人に応じて量を調節したり軟飯にしたりと出来るだけ食べて頂ける声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けやうがいなど、その方に合った口腔ケアを行っている。夜間は洗浄剤にて義歯の管理を実施しており、週1回歯ブラシ・コップの漂白洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には時間を決め、トイレ誘導を行っている。それによりキャッチの使用も減り、徘徊の感覚もつかんで頂けるように努めている。	排泄チェック表を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握して、さり気ない誘導でトイレでの排泄を大切にしている。(1ユニットにトイレは3ヶ所設置しており、お気に入りのトイレを利用する方の支援も行っている)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	いつでも水分補給が出来る様食堂にお茶を準備している。食事前の少しの時間を利用して廊下歩行等の軽い運動や、マッサージ等を行っている。又、便秘5日目に下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴してもらう為に個々の入浴時間を配慮している。本人が拒否される時には無理に入らず、次の機会に入浴して頂いたり、足浴、清拭にて対応している。	浴室は外気が入る窓があり、ゆったりと入浴できる造りになっている。週3回午前中が入浴になっているがそれ以外にも随時対応している。職員が持参した柚子湯や菖蒲湯などで、入浴を楽しむことができる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はカラオケや体操等、楽しんで頂き、いつでも居室で休んで頂ける様室内の温度調節をし、訪室して声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いよう、職員同士でダブルチェックを行っている。内服準備は全職員が行い薬管理表を作成し、内容・効能・種類・数量等も理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々で趣味を楽しんだり、得意な事を生かした生活を過ごして頂いている。畑の水やりやベランダの花の水やり、施設周りの散歩等、好みに沿った支援を行うよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節なども考慮し、ドライブや施設周りの散歩等を行っている。本人希望にて自宅の庭に咲いている花等を取りに行く事もある。お花見や買い物の際は家族も参加されたり、馴染みの地域の方に出会い、会話を楽しまれている。	ゆったりとした2階ベランダにはベンチが置かれ、戸外に出かけにくい方でも日常的に外気浴ができるように工夫している。遊歩道のようなベランダからは鳥羽湾の花火大会や季節の移り変わりが眺められ、利用者の楽しみごとになっている。また菜園ノートを作成し、菜園での水やりなど日常的に戸外へ出かけられるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は本人の希望とご家族の了解を得て、自分で管理できる方には所持して頂いている。買い物やドライブ等にて使用され、金銭出納帳にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に連絡を取れるよう、電話の使用などを支援し会話を楽しまれている。毎年、地域の小学生からハガキが届いた時は返事のハガキを出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファがあり、新聞・テレビ・雑誌等いつでも自由に見て頂ける空間作りに配慮している。季節の掲示やベランダのベンチにて外の花を見て頂いたり、空気に触れ季節を感じて頂ける工夫を取り入れている。	広いベランダに面した大きな窓のある明るい共有スペースには、利用者の知人の活花や季節の壁飾りが飾られている。畳コーナーやお気に入りのソファなど居心地良く過ごせる工夫や配慮が随所にみられる。職員の声のトーンも適切で、窓からの風は季節を体感できる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで編み物をされたり、全員でテレビを見たりと自由に気軽に過ごして頂ける空間になる様心掛けている。気の合う仲間でおしゃべりやトランプをされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使い慣れてきた家具やテレビ等を居室に置き、自宅での生活に似た居室になる様工夫している。	各居室には作り付けの机や清潔な洗面台が利便性とプライバシーを重視して設置してある。手編みの得意な方の部屋には編み針が持ち込まれ、職員のマフラーを編まれる方もいる。利用者一人ひとりが清潔で落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や共有空間には手すりを設置している。居室には名前を貼り、トイレには絵と文字で表示して分かりやすくしている。名前の位置を低くして見やすい様に工夫している。		